慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	専門学校の競争戦略 : 学校法人菅原学園を例に
Sub Title	
Author	菅原, 崇博(Sugawara, Takahiro) 小林, 喜一郎(Kobayashi, Kiichirō)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2017
Jtitle	
Abstract	
Notes	
Genre	Thesis or Dissertation
URL	http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002017-3307

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（　　2017　年度）

論文題名

専門学校の競争戦略

―学校法人菅原学園を例に―

主　査	小林 喜一郎 教授
副　査	河野 宏和 教授
副　査	大藪 毅 専任講師
副　査	

氏　名	菅原 崇博

論 文 要 旨

所属ゼミ	小林喜一郎研究会	氏名	菅原 崇博

（論文題名）
専門学校の競争戦略―学校法人菅原学園を例に―

（内容の要旨）

少子化の影響に伴い、「大学全入時代」と呼ばれる大学の定員数を受験生が下回るようになってから既に久しい中、一方で職業の多様化、新たな科学技術の登場に伴い、専門職スキル教育の需要が高まりつつある。こうした我が国の現状の中で、職業教育を目的とした専門学校の重要性が今一度見直されつつある。

こうした背景を受け、筆者の実家であり、宮城県仙台市を主な拠点とする学校法人菅原学園をモデルケースとし、今日の専門学校がいかなる競争戦略を取り、我が国の職業教育に貢献すべきなのか、競合分析と自社分析を通じて検証する。菅原学園は他に東京都の専門学校と山口県の 4 年制大学（M&A により買収）を有する。

分析のフレームワークには、競争戦略を考える上で最も基本的な枠組みとされるマイケル・E・ポーターの「5forces」とジェイ・B・バーニーの「VRIO 分析」を採用し、外部環境と内部資源の双方から考察を加えている。本論で扱う専門学校は、学校法人菅原学園が仙台市に有する 4 つの分野であり、それぞれ

・専門職スキル系
・保健福祉系
・ペット系
・デジタルアーツ系（クリエーター系とテクノロジー系に内部でさらに細分化）

としてカテゴライズしている。各カテゴリーが仙台市に存在する 1 つの学校である。それぞれの分野の特色、競合分布、市場成長率や地域性もなども考慮した分析を行ない、各分野ごとの競争戦略や菅原学園のとるべき方針を結果としてまとめている。尚、一部の分野においては、学生が将来目標とする職業において、短期大学や 4 年制大学の卒業者と就職時に競合することもあり、それらの学校も競合分析の対象としている。これら大学との競争は専門学校にとって不利であるとされているが、実際に不利であるのか、その場合どれだけの差があるのかという定量的分析は前例がなく、専門学校として克服の可能性があるのかについても分析を加えている。

それぞれの学校の競争力指標は単純な法人の規模ではなく、各校が設定する定員枠に対し、どれだけの学生が入学しているかを示す「定員充足率」を採用している。専門学校が最も追求すべき学生の「就職率」の高さは本当に学生獲得のための KSF となっているのかの検証も加え、学生獲得に成功している学校はどのような強みを持っているのかについても各分野ごとに分析を行なっている。

これらの分析結果を菅原学園の他の既存リソースと照らし合わせながら、どのようにしてこれからの学生獲得に繋げていくかの考察を加えたのが本論である。